

氏 名：平田 美佳
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 221 号
学位授与年月日：2022 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 木下 康仁（聖路加国際大学特命教授）
副査 林 直子（聖路加国際大学教授）
副査 小林 京子（聖路加国際大学教授）
副査 林 章敏（聖路加国際病院緩和ケア科部長）

論 文 題 目：子どものがんの発病から死を迎えるまで子どもの病と闘った母親の生きる力の軌跡：M-GTA による理論の生成

博士論文審査結果

1. 論文の概要

本論文は、子どものがんの発病から病との闘いを経て子どもの死を迎えるという過酷な経験をした母親の生きる力は何か、それはどのような形成され何によって変容していくのかの軌跡を理論化したものである。哲学的基盤を Child and Family Centered Care におき、子どもとの死別後 1 年以上経過した母親 12 名を対象に半構造化面接、思い出の品の共有、面接時の観察によってデータを収集し修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）による分析をおこなった。

分析の結果、母親の生きる力は、【母親であり続けるということ】、【希望と絶望の矛盾に折り合いをつける】、【無意識に変容される“母親”の定義】、【苦しみからの一時的解放を許す他者の存在と支え】を中心に構成され、これらの相互作用から生きる力が生成され、維持される 4 つの局面からなるプロセスが明らかにされた。なかでも＜子どもからの終焉の合図＞は、子どもの死が近づいてきた時期の母親の生きる力の軌跡に大きな転換を生じさせ、母親がその合図に気づくと母親も子どもも病との闘いから解放されることが示された。

本研究は、生きる力とは一般的な意味と異なり、過酷な経験を経たゆえに母親の中に生成される人間にとって根源的な支えであることを見出した。

2. 評価できる点

本研究はテーマの深さ、調査のむずかしさにも関わらず全体を通して丁寧に進められ、協力者への適切な配慮のもとになされた。この研究への研究者の真摯な姿勢が信頼感を形成

し協力者にとっても有意義な機会となり、この種の研究の在り方を示している。

その結果、貴重なデータが得られており、複雑で多様な当事者の今に至る経験がディテール豊かに語れており、インタビュー時の様子も重要なデータとなっている。語り難さのある母親たちの重い経験を共感的に聞くという、面接者にとっても心理的負担の大きい作業に臨み質の高いデータを得られている。

分析方法である M-GTA の理解も十分であり、個別性の顕著なデータ特性を踏まえ独自に分析方法を工夫し、事例研究とその統合化という二段階の分析を行っている。3 例の事例分析は 12 例の対象者の特性を反映して選択されており、当事者の生きる力の生成過程が詳細な記述により再構成され感動的内容となっている。また、統合化の結果は、上記のように 4 局面からなる理論にまとめられた。深い洞察と緻密な記述により母親たちの複雑な経験を可視化している。

3. 課題点と修正についての評価

審査委員会では力作という評価は一致していたが、さらに完成度を高めるために主に次の 3 点が指摘された。①中心概念である「HOPE (生きる力)」をはじめ、フェイズ、局面、プラットフォームなど主要な概念の定義と相互の関係が不明確である。②事例分析から統合化の分析へする方法について明確な記述を要する。③考察では結果全体を踏まえて論考を深めることであった。また、各審査委員からは細かな点を含め詳細な指摘があった。

これらの指摘に対し、1 月 31 に提出された論文において適切な修正がなされたことを審査委員全員が確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。